

ニュースレター From インドネシア(2004.10 要旨)

1. インドネシア 京都議定書に調印

調印に当たっての、理論的検証等に時間を要したが、2004年6月23日にインドネシア政府と国民議会は合意に達した。

バイオマス・エネルギーに関連する事業者達は、地球温暖化防止の有効な対策と同様に、再生可能なエネルギー利用技術を使って、如何にしたら、CDMを活用出来るかの検討に入った。

2. 世界再生可能エネルギー地域会議2005年

バンドン会議の50周年を記念して、アジア・アフリカ・サミットが2005年4月に開催される。

インドネシア・再生可能エネルギー協会はイギリス、ブライトンにある、世界再生可能エネルギーネットワーク並びにジャカルタにある、アジア・エネルギー・センターの了解を得て、世界再生可能エネルギー地域会議を開催する。

会議の主催者は、インドネシア・エネルギー鉱物資源省、科学技術省、環境省、外務省等が予定されている。

再生可能エネルギーの利用と発展に関する問題が、アジア・アフリカ大陸の貧困問題に対応する為に、ワークショップ並びに準備部会、技術部会で、政治的、実用的立場から論議される。

会議では、再生可能エネルギー関連の取引並びに商品の展示の場も提供される。

3. 廃棄物管理の技術セミナー

インドネシア原子力エネルギー庁は2004年9月15日に、西ジャワのセポンの科学技術発展センターでセミナーを開催し、約60名の研究者、大学、関係政府機関の方が参加した。主な議題は、廃棄物管理に関する政策と規制、各種廃棄物の取り扱いに関する処理技術と安全、廃棄物管理の社会、経済的側面の研究であった。

4. インドネシア有機資源循環利用協会の設立計画

インドネシアのANOR会員の会議が、2004年9月25日に、ボゴール大学で持たれ、Iインドネシア有機資源循環利用協会の設立の計画と、2005年12月にワークショップを開催する事が合意された。